

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

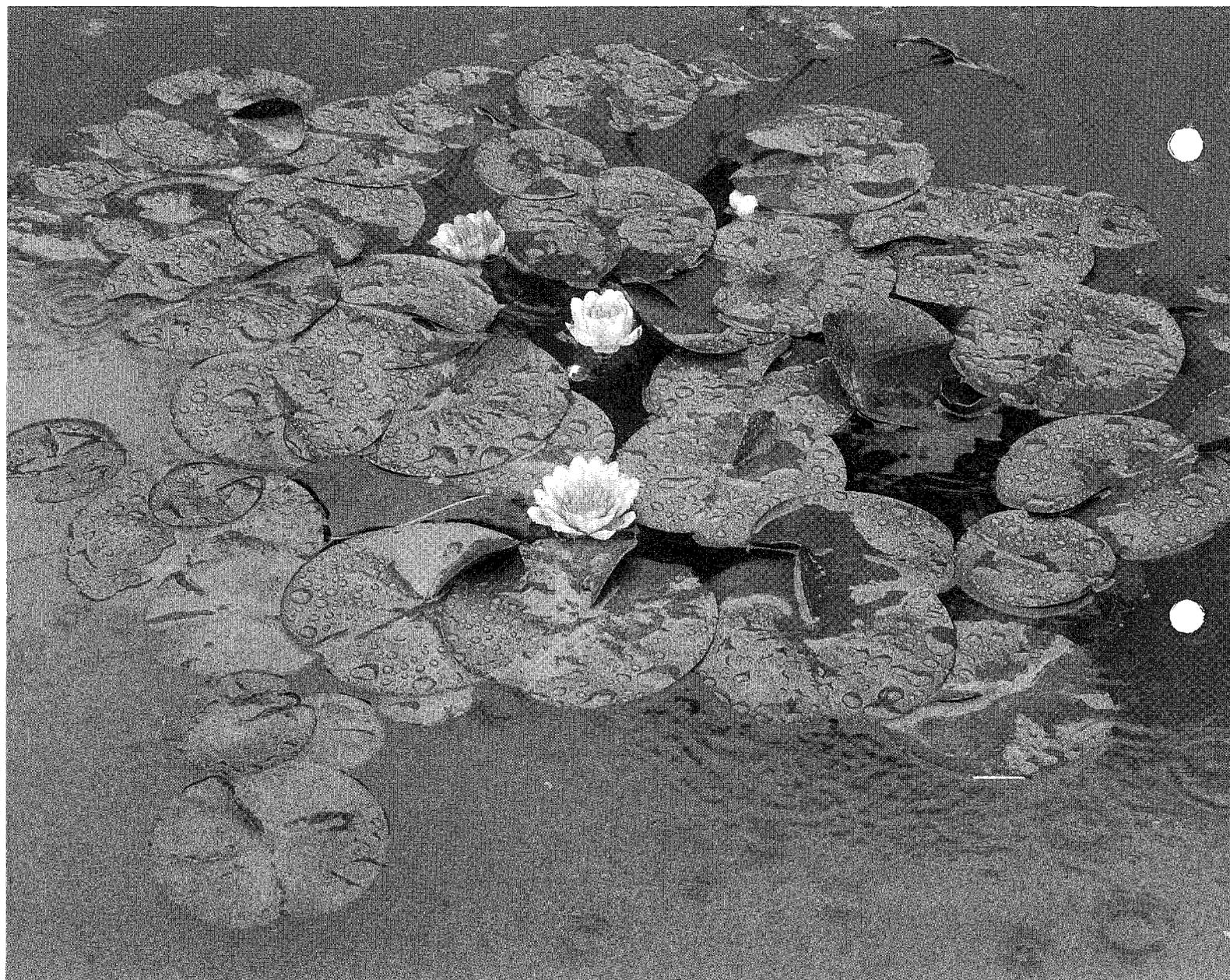
[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

鮎

6

JUNE
1995



家島・坊勢漁協がヒラメの稚魚
10万尾を放流

No.464



季節の香

かおり

【ヒョウモンチョウ／豹紋蝶】

山頂の広がりには、初夏の花々が咲いていた。日当りの良い草原を軽快に飛び回るチョウを見る。オカトラノオの白い花にヒョウモンチョウが来ていた。止まっては飛び、飛んでは止まる。

黄色地に黒の斑点模様が豹を思わせるから、豹紋蝶と名づけられた。ヒョウモンチョウの仲間は、皆よく似た兄弟のようで静止していても種の同定が難しい。これはウラギンスジヒョウモン。スマレの葉を食草にして育つ。

開発の入らない風景は心を伸び伸びとさせる。この景色に人工の造形物は似合わない。いつまでもチョウや虫たちの楽園としておきたいものだが、すぐ近くの谷にブルドーザーの音が聞こえる。

COLUMN

◆「わたしや青梅、揺り落とされて紫蘇と馴染んで赤くなる」佐賀に伝わる俗謡である。梅漬けに紫蘇を加えるようになったのは、江戸時代後半と言われている。庶民の間で、盛んに利用され始めたのがこの頃である。梅干しの考案者が誰なのかは判然としないけれど、平安期に村上天皇の病気を治したと伝えられており、当初は薬用として珍重されたようだ。鎌倉時代には禅宗の僧たちに点心として用いられ、武士は戦場での兵糧として活用した。保存食品として素晴らしい発明だったといえる。

シワは寄れども：

◆醸造酢の無かった頃には、塩は辛味／梅酢は酸味の代表だったから料理の味加減をすることを、塩梅（あんばい）と言うようになった。今では様々なことの加減をする意味に使われる。紫蘇の色素は梅酢に合って赤く変化し、青梅を紅色に染める。科学的な反応をうまく生かしていて感心してしまうが、あの赤い発色は思わず生唾が出てくる色合いなのである。

◆野菜を塩漬けにして保存するのは、原始社会から行っていたとされ、酒や醤（ひしお）の製法が発達するにつれ、色んなものを漬けて込んで保存することが考え出された。春はワラビや蕨を、秋にはナ

スや瓜を保存して食糧にしたのである。漬物は精進料理に取り入れられ、香の物という呼び名が生まれた。

◆漬物ほど普段着の料理はあるまい。祖母はカブに人蔘やコンブを加えた酢漬けを作ったが色どりが子供の頃から親しんだ。また、糠味噌に漬けたナスの紫色は夏の夕餉のピカ一だった。雪国では漬物が茶うけに出ると言うが、塩漬／糠漬／麹漬など四季を通じて楽しめる手軽な味である。「シワは寄れどもあの梅干しは、色気はなれぬ粋なヤツ」（遊方子）

拓水

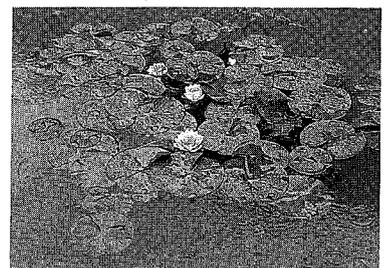
JUNE

CONTENTS

季節の香	2
ヒョウモンチョウ／豹紋蝶	
インフォメーション	4
part 1 家島・坊勢漁協がヒラメの稚魚10万尾を放流	
part 2 内水面漁業センターがオープンしました	
TOPICS	6
県漁連・信漁連・共済組合 平成7年合同通常総会	
水試ノート	8
イシダイの行動と瀬・魚礁との関係	
漁海況情報	9
海区漁業調整だより	
栽培漁業センターです	10
普及員だより	
千種川に育 <small>はぐ</small> まれた漁家と農家の交流会	
旬の美味しい話	11
キスのバラエティー料理	
兵庫JCC通信	
「JAグリーン」はJAグループの生産資材店舗 大学復興祭で健康チェック 大手前女子大学生協	
こちら海ですロケだより	
ぶらり一周・淡路島 ～兵庫県淡路島より～	

今月の表紙

フォトギャラリー



表紙写真
高尾 暁子さん
〈明石市在住〉

フォト歳時記

雨に咲く花（社野平池にて）
四季の中で梅雨期は陰鬱なものだが、雨にも独特の風情はある。俄かに降る雨がドラマの発端になったりする。また、この世の全ての不浄を洗い流してくれそうな気もする。

人影まばらな菖蒲園の午後。静かに雨が降り、池の面に僅かな波紋を広げる。水の精の化身というスイレンは雨に似合う花である。梅雨の頃に咲く花には白いものが多い。ウツギ／クチナシ／スイカズラなど、雨に濡れつつ咲いている。傘の雫と泥濘を気にしながら、雨中の散策を愉しむ。弁当を忘れても傘忘れるな、とは古人の戒め。蛙がしきりに鳴き交わっている。

表紙写真募集

アマチュアの方で、ご自慢の写真がございましたら、左のように明記して、お送り下さい。写真は必ずご返却いたします。①写真撮影場所②氏名（フリガナ）③郵便番号・住所④自宅電話番号（市外局番号も）⑤年齢・職業

送付先
千六五二 神戸市兵庫区中之島二丁目
二一 県立水産会館
兵庫県漁業協同組合連合会
指導部指導課「拓水」係宛

part 1

インフォメーション

家島・坊勢漁協がヒラメの稚魚10万尾を放流



去る五月二日、家島、坊勢漁協においてヒラメの放流事業が実施されるとのこと、同行取材をしました。

このヒラメの放流事業は漁獲高が減少し始めた約十数年前から資源の維持増大を図るため、養殖業者より購入したヒラメを用いて、毎年、両漁協の共同により実施されています。

この日放流した種苗はふ化後約三カ月間育成された全長約十二センチのもので、香川県内の養殖業者「(株)渡辺」より一尾当たり約百十円で、十万尾、合計一千百万円で両漁協が購入したものです。この「(株)渡辺」では、ヒラメ、マガイ、トラフグの種苗生産・販売をしており、特異なものとして、突然変異の体色異常によるもので数量は少ないですが、『金のヒラメ』も販売しているそうです。

五月二日午前七時、それぞれの漁協の役員二十数名が計四隻の運搬船に乗り込み、一路、ヒラメの受取場所である香川県大川郡大内町三本松まで向かい、午前八時半頃到着、およそ二時間ほどかけて約十万尾のヒラメ稚魚を受け入れました。午前十時半頃、積み込みが終わるとすぐさま家島、坊勢へ向かい、到着したのは正午過ぎでした。さっそく、両漁協で手分けをして半数ずつのヒラメ種苗をそれぞれ家島諸島周辺の数カ所に放流しました。ヒラメの活力は良く、「大きくなって帰ってこいヨ」と願いつつ海に放流してやると、すぐさま海底に潜りその姿は見えなくなりました。このようにして、約十万尾ものヒラメの放流作業は一時間ほどでようやく終了しました。

本県におけるヒラメの栽培漁業は、昭和五十四年から県立水産試験場で種苗生



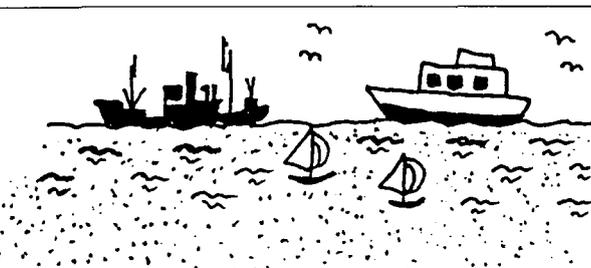
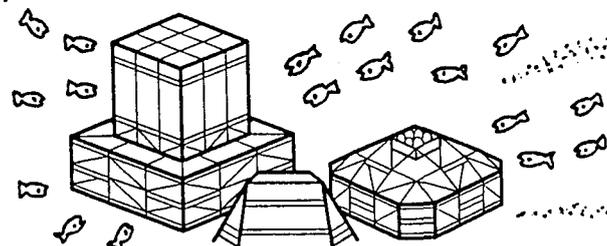
産が開始されて以来、毎年、実施されており、昨年度には約六十万尾の稚魚が配布されています。近年ではこれらの効果が顕著に表れており、それまで二ヶタだった兵庫県内海地区のヒラメ漁獲量は昭和六十年以降には百数十トン〜二百トンにまで回復しています。家島、坊勢の両漁協では養殖業者から購入した種苗の放流とは別に、県から配布される種苗の中間育成・放流も実施しており、それぞれの組合員たちはこれら放流事業の効果を確実に実感されているとお聞きしました。

地道な活動ですが、このたびのヒラメの放流を始めとする栽培漁業の取り組みが漁業資源に対して良い結果を生むことを祈念してやみません。

躍動する海

活動する

神鋼鋼製魚礁



神戸製鋼グループの魚礁メーカー

神鋼建材工業株式会社

本社 〒660 兵庫県尼崎市丸島町46番地

TEL (06)418-3797 FAX (06)418-2423

part II

内水面漁業センターがオープンしました



本県の内水面漁業の振興を図るため、

朝来郡朝来町田路に兵庫県立水産試験場内水面漁業センターがこのほど完成し、五月二十七日に谷、吉岡衆議院議員をはじめ、県からも今井副知事が出席し開所式が行われました。

また、当日は好天に恵まれ、地元の子供たちによるあまこ稚魚のせせらぎ広場への放流も行われました。

この施設のことを少し紹介しましょう。

この施設は、

① 河川漁業者や

養殖業者に、増養殖及び魚病の対策等についての研修や実習を行い、資源の増強や生産性の向上を通じて内水面漁業の振興を図る。

② 小・中学生や

遊漁者をはじめ、県民に広く開かれた施設として、河川環境の維持保全、資源保護などの体験学習や実験観察の場

を提供し、内水面漁業の重要性を普及啓発する。

を目的として整備されたもので、あまこにじます、あゆ、かじか等もっばら淡水魚を扱います。

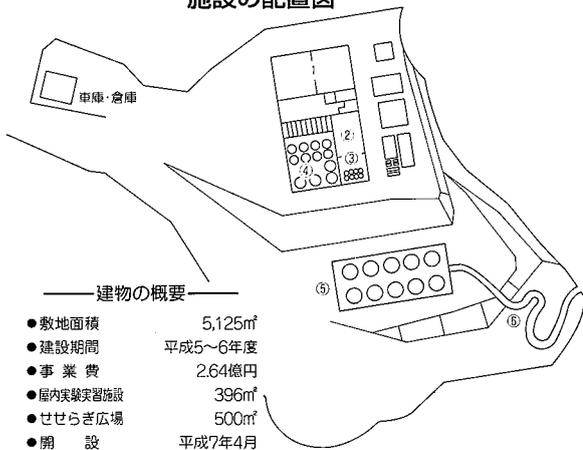
建物はこじんまりしたのですが、魚病についての検査機器が整備されており、養殖業者から大きな期待が寄せられています。また、小・中学生を対象とした研修用器具も整備されており、自然とのふれあいの場であるせせらぎ広場には、あまこが放流されています。

内水面漁業センターは、国道三二二号線から田路川に沿って十分程度奥に入ったところにあり、杉林に囲まれた大変静なところで、夜にもなると鹿や狸が訪れてくれます。

毎日、海を見て暮らしておられる漁業者の皆様、たまには気分転換に山の中にいらっしやいませんか？

せせらぎの音を聞きながら、山の緑を眺めるのもいいものですよ。

施設の配置図



建物の概要

- 敷地面積 5,125㎡
- 建設期間 平成5～6年度
- 事業費 2,64億円
- 屋内実験実習施設 396㎡
- せせらぎ広場 500㎡
- 開設 平成7年4月

施設の概要

区分	施設	業務内容
屋内実験実習施設	①研修室、展示室、相談室等	漁業と遊漁および環境保全等についての研修を行い、水辺空間の有効な利用を普及啓発します。
	②飼育実験実習室	漁業者や養殖業者に淡水魚の飼育および魚病対策などの実習を指導します。また、小・中学生の簡単な実験や観察を指導します。
	③魚病検査実習室	
	④魚病実験実習室	
屋外実験実習施設	⑤4トンス水槽(10面)	実験実習に必要な魚の飼育を行います。
せせらぎ広場	⑥人工河川(50m)	生態観察、自然とのふれあいの場を提供します。



TOPICS

真漁連・信漁連・共済組合 平成七年合同通常総会

真漁連、信漁連、共済組合三団体合同通常総会が去る五月二十三日に開催されました。通常総会開催に先立って例年通り地区別事前説明会が五月十一日淡路地区、五月十二日撰播地区、五月十五日但馬地区において実施され、平成六年度事業実績、平成七年度事業計画等総会提出議案について、三団体より各々詳細な説明がなされており、通常総会においては、相生漁協の鳥井組合長を議長に選出、議事はとどろおりに進行し、三団体より提出された全議案は原案通り可決決定されました。

議事に先立ち、本総会にご臨席頂きました、今井兵庫副知事より、

「阪神淡路大震災に被災されました皆様方に衷心よりお見舞い申し上げますとともに、県内外の関係各位から非常にあたにかいご支援、ご協力を賜りましたことを心からお礼申し上げます。

今回の震災で、本県漁港・港湾・水産関係施設等もたいへん大きな被害を受けました。このような厳しい状況の中、系統団体におかれましては漁業災害対策本部をいち早く設置され、皆様方の懸命なご努力により漁業生産活動が順次再開されていますことに対し、心から敬意を表します。

県としましては、漁港や水産関係施設等の早期復旧に努めておりまして、現在、自治体・関係市町・関係団体・被災住民の皆様等の意見を伺いながら阪神淡路経済復興計画の策定に全力をあげて取り組んでいるところであります。

本県水産業を取り巻く環境は、大震災の影響により、以前にも増して厳しい状況下ではあります。何よりも、つくり育てる漁業の推進、資源管理型漁業の積極的な推進による



定着化を図っていくことが肝要であると考えています。特に、日本海漁業におきましては国際的

協力のもとでの水産資源の有効利用が重要な課題であります。昨年十二月に国連海洋法条約が発効され、現在七十八カ国がこの条約を締結していますが、今後この輪が世界的に広がることを期待しております。

瀬戸内海ではサワラ、日本海ではイカと初夏の漁の季節となっております。皆様方におかれましては、ますますご健勝で一層ご活躍を賜りますことを心から祈念申し上げますとともに、真漁連、信漁連、共済組合三団体の今後一層のご発展を衷心よりお祈り申し上げます。」

と、ご祝辞を頂きました。

兵庫県漁業協同組合連合会



挨拶を述べる村瀬県漁連会長

通常総会の開催にあたり、村瀬県漁連会長より、

「平成六年度は、兵庫県南部地震、猛暑、渇水等の異常気象により、本県漁業施設等に大きな被害がもたらされました。本会の事業につきましては、例年にも増して厳しい経営環境下ではありましたが会員各位のご協力と県ご当局をはじめ関係機関並びに系統諸団体のご指導ご支援により当初の計画を達成することができました。

本県漁業においては、水産資源、魚価・流通、金融情勢、漁場環境等、漁協経営を圧迫する様々の問題がありますが、私たち漁協系統は、これら諸問題を解決し、二十一世紀に呼応できる体制づくりを行うために、「海の上での協同」を理念とする資源管理型漁業の

推進をはじめ、漁場環境の保全並びに漁協系統の組織強化を基本課題とした実践運動に本腰を入れて取り組まなければなりません。当連合会としましては、その役割を果たすためにも役員が一体となり、会員並びに所属員のご期待に応えるべく、基本方針に沿って事業を展開して参る所存ですので、今後とも会員各位の格別のご協力と、行政ご当局を初め漁協系統諸団体のご指導、ご支援をお願い申し上げます。」

と挨拶がありました。

事業概要

平成六年度は「海の上での協同」を理念とする資源管理型漁業の推進をはじめ、漁場環境の保全並びに漁協系統の組織強化を基本課題として当初計画に掲げた「七つの重要な柱」並びに地震災害対策に対して積極的に事業を推進しました。

なお各事業の取扱実績は次のとおりです。

- (1) 購買事業
 - 石油取扱高 六八・八億円
 - 資材取扱高 三三・五億円

- (2) 販売事業
 - のり共販 一五二・九億円
 - ワカメ共販 一・一億円
 - 鮮魚取扱高 五・五億円

▼事業計画 ▲
昨年度に引き続き
「心豊かな暮らしと活力ある漁村社会の創造」をテーマに三つの基本方針と七つの重要な柱を中心に事業の推進を図ります。

【基本方針】
一、漁村を担う、人づくりをすすめます。
二、活力のある組織づくりに努めます。
三、青く豊かな海づくりを推進します。

【重要な柱】(重点実施事業)
一、充実した研修を通じて、漁村を担う人づくりを推進します。
二、漁協合併の推進を柱とする漁協の組織経営基盤の強化と、あわせて将来の発展に向けて当会の経営基盤の強化に努めます。

三、栽培漁業の効果的推進を軸に、漁業資

源の保護増強対策を積極的に推進します。四、兵庫のり研究所の機能を十二分に發揮し、のり養殖漁業の振興を図ります。五、漁場環境の保全、遊漁密漁対策並びに、操業安全に対する指導を強力に推進します。

六、協同組合間の提携をさらに強め、水産物の販路拡大に努めます。

七、協同意識を啓発し、系統利用率の向上と購買品の安定供給に努めます。

八、会員各位のご協力と、関係機関のご指導、ご支援をお願いいたします。

▼役員 改選 ▲



小川 漁連新会長
改選の結果、次の役員が選任されました。

- 代表理事 小川 守男
- 副会長 山田 春三
- 副会長 白川 定男
- 副会長 吉岡 修一
- 専務理事 青 正輔
- 専務理事 林 一成
- 専務理事 戎谷 良弘
- 専務理事 石井 一朗
- 専務理事 吉田 稔彦
- 専務理事 中川 三三
- 専務理事 中村 庄助
- 専務理事 西岡 美彰
- 専務理事 武田 嘉一
- 専務理事 風 操
- 専務理事 魚井 久喜
- 専務理事 青石 協
- 専務理事 木下 清
- 専務理事 川越 榮一
- 代表理事 片山 平嗣
- 代表理事 大上 正一
- 代表理事 福谷 良重

●兵庫県信用漁業協同組合連合会

通常総会の冒頭、木下代表理事会長は、

「この度の阪神・淡路大震災で被災された漁協・組合員の方々に、お見舞いと一日も早い復旧をお祈りするとともに、震災に対する復興資金については本会が万全を期して融資対応する。また、全国各地から寄せられたご芳情に対してお礼を申し上げます。」と挨拶した。引き続き、平成六年度信用事業推進優良漁協として以下の組合が表彰されました。☆信漁連会長賞―神戸市漁協、家島漁協、坊勢漁協、湊漁協、南淡漁協、沼島漁協、竹野浜漁協、柴山港漁協、浜坂町漁協

▼事業 概要 ▲
平成六年度は「兵庫県漁協貯蓄八百億円達成運動」の第六年度として、必達目標七百三十四億円を設定し推進しました。結果的には、猛暑による水揚高の減少、大震災の影響等により、期首残高を下回り目標達成にはいたりませんでした。しかし、これらの自然災害を考えますと漁協役員の大変なご努力があったものと深く敬意と謝意を表するところであります。

信漁連貯金は、漁協貯金の再預けと系統諸団体のご利用をいたしておりますが、漁協貯金の減少に伴って期首を下回るものとなりました。貸出業務は、のり養殖の設備投資を軸に代船建造・共同利用施設需要も加わって新規貸付が拡大し、前年度を上回る実績で推移しました。大震災復興支援融資は、漁家生活資金・既往借入金返済条件緩和等機動的に対応しましたが、本格的には次年度に持ち越しされました。収支状況は、定着した低金利水準のもとで、調達運用の効率化に努め、相当額の奨励金を支出することができました。

▼事業 計画 ▲
平成七年度は、基盤整備として「アクション九五」を合言葉に、「結びつき強化による全利用推進」を漁協ともども積極的に展開するとともに、「兵庫県信用事業組織強化方策」に基づき、「一県一信用事業統合体」

の構築を目指します。また、事業運営につきましては、「経営改善長期計画」を抜本的見直し、なお一層の経費の節減と効率的な資金調達・運用に努めてまいります。また、積極的な融資取組みを通じて震災復興に資してまいります。会員各位のご理解あるご協力と行政庁、農林中央金庫、関係諸機関のご指導ご支援をお願いいたします。



木下 漁連会長
接拶を述べました。

●兵庫県漁業共済組合

▼事業 概要 ▲

当組合創立三十周年の節目の年にあたり、また「ジャンプアップきよさいⅡ運動」第二年度となる平成六年度は、共済金額一七〇億円の加入推進計画を設定し、積極的な加入の普遍化に取り組んだ結果、夏の近年まれに見る猛暑と、異常少雨に起因すると思われる漁場環境の変化に加え、一月十七日、未曾有の阪神・淡路大震災が発生したことにより、当組合の事業推進に重大な影響を受けることが予測されましたが、皆様方のご支援により共済金額一八六億二千万円の実績をいただき、目標の達成をすることができました。漁業共済事業に対する県当局のご指導と、関係市町及び漁業系統団体並びに漁協、漁業者各位のご協力に対し、心から厚くお礼を申し上げます。

一方、共済金の支払では、過去最高の支払額となった昨年度を除くと各共済種目とも、おおむねこれまでの十年間の平均値で推移し、総額において四億四千万円の支払額となりました。これにより事業部門において九八一万円の



接拶を述べる吉岡共済組合長

損失を見ることとなりましたが、管理部門を含めた総合収支では一九五七万円の剰余金計上となり本期を終了いたしました。

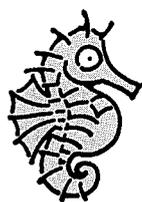
また、このたびの震災に際し、本県内外から当組合に寄せられた数々のご芳情に対し、厚くお礼を申し上げます。

▼事業 計画 ▲

平成七年度は、阪神・淡路大震災の被災地におかれては復興の年となりますが、「きよさい」が漁業経営の立ち直りの一助となるためには、さらなる制度の高度利用の向上が重要な課題となっております。関係各位のご支援と漁業者のご理解に支えられて歩んだ三十年の成果と反省をふまえ、「ジャンプアップきよさいⅡ運動」の最終年度として、きよさい制度の高度利用の促進並びに普遍的加入の推進を目標に設定し、普及推進に努めてまいりますのでよろしくご支援、ご協力をお願いいたします。

▼役員 改選 ▲

- 任期満了に伴う役員改選が行なわれ、次のとおり決定しました。
- 組合長 吉岡 修一
- 副組合長 中村 庄助
- 副組合長 松原 幸次
- 専務理事 坂井 登
- 専務理事 前田 欽宏
- 専務理事 戎谷 良弘
- 専務理事 石井 一朗
- 専務理事 橋 輝之
- 専務理事 西岡 美彰
- 専務理事 風 操
- 専務理事 奥野 進
- 専務理事 木下 清
- 専務理事 川越 榮一
- 代表理事 片山 平嗣
- 代表理事 浜田 繁喜
- 代表理事 魚住 克福

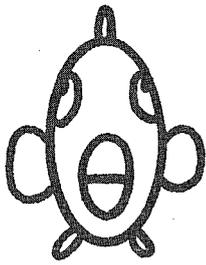


イシダイの行動と

瀬・魚礁との関係

イシダイは兵庫県瀬戸内海にはあまり見られない様ですが、日本海では普通に見られる磯魚の一種です。漁獲量は多くはありませんが、刺身にできる大きさのものは高級魚として珍重されています。

このイシダイは沿岸の磯（水深二十m位まで）では、数尾から十数尾ないし単独で見られることが多く、数百尾の群で見られることはまれです。ところが少し沖合の独立礁あるいは人工礁では、しばしば大群が出現します。ここではこのようなイシダイの行動と瀬・魚礁との関係についてお話しします。イシダイが岩礁域を生活の場としていることは、潜水観察・漁獲調査・食性調査（岩礁に付着してい



るイガイ、フジツボ等を食べている）などから分かっています。この様なことから岩礁域（人工礁・瀬）はイシダイにとって好適環境であると言えます。逆にイシダイが見られない砂質海域（海底）は不適環境と言えます。このような砂質海底に人工礁等を設置すると、不適環境の中に好適環境を作ったことになり、イシダイがたくさん集まることとなります。まさに砂漠のオアシスです。護岸とかテトラポットなども砂質域に設置されますが、同じ理由でここでもイシダイの大きな群は時々見られます。

それでは、なぜ但馬海岸の沿岸の磯ではイシダイの大群は見られないのでしょうか。一つには水深二十m付近までの沿岸の磯をイシダイが大群では、殆ど通らないということです。これは小型定置網にまとまって入らないことでも分かります。先にお話ししたとおり沖合の瀬・人工礁では大群がみられ、沖合を移動していることが分かります。そこで沖合域の大

NOTE

水試

群がみられる人工構築物で千尾程のイシダイに標識をつけて放流したところ、それらはしばらくは、その構築物に留まっていた。数日後、沿岸の磯で漁獲されはじめましたが、すべて一尾から数尾でした。また沿岸の磯で潜水中、標識をつけたものを何回か観察しましたが、やはり一尾か数尾で、中には同じ所に数週間いたものもいて沿岸の磯では大きく移動はしませんでした。このようなことから沖合いで大群を作っていたイシダイは沿岸の磯に到達すると、群はバラバラになり、滞留することがわかります。

また、沿岸の磯はその規模は非常に大きく、人工礁や独立礁の比ではありません。すなわちイシダイは沿岸の磯という大きな好適環境の中では、どこにでも餌があり生活の場があるので、一カ所に集中して生活する必要がありません。それ故、小さな群や単独になり、そこに留まるものと思われれます。これが沿岸の磯でイシダイの大群が見られない二番目の理

由です。

一方、沖合の瀬・人工礁では不適環境の中の好適環境であるため、どうしてもそこに集中します。そこで大群が見られるわけですが、瀬や人工礁の規模が小さいため一時的な滞留となり、また沿岸などに移動していくものと思われれます。

以上まとめますと、イシダイは沿岸の磯では小さい群で比較的長期間滞留し、沖合の砂質地帯にある瀬や人工礁では大きな群で一時的に滞留し、沿岸の磯に移動するといえます。

今、兵庫県はじめ各地の地先に人工礁が数多く設置されていますが、イシダイのこのような行動からみて、単位面積当たりの漁獲量は、おそらく人工礁のほうが大きいのと思われれます。また、人工礁を設置する場合、砂質海底に設置した方が天然礁の上に設置するよりは効率的ではないかと思えます。そして、沖合の魚群を特定の海面（例えば定置網のある所）に導くための、誘導礁的な魚礁の配置も考えられます。（資源部 玉木 哲也）



漁海況情報

兵庫県立水産試験場

海況

概況 播磨灘では水温成層が発達してきた。灘表層の十五地点平均値は十六・〇℃とかなり高め、十m層および底層では年平均の値を示している。四月にはまとまった雨が降り、十五地点平均塩分は表層で三十二・八〇と先月(三三・四八)に比べ低くなったが、依然として年平均(三十一・七二)を上回っている。溶存酸素量は底層で平年より十%程度低くなっている。透明度は先月に引き続き高めの値を示している。播磨灘北部沿岸では小型珪藻が発生しているが、その他の海域では植物プランクトン発生量は少ない。栄養塩類は表層では平年並みかやや少なめだが、底層では多めの値を示している。

水温 明石海峡および鳴門海峡付近を除き、水温成層が発達しており、播磨灘十五地点平均値の表層と底層の水温差は三・三℃(平年一・七℃)、灘最深部の水温差は六・〇℃(平年二・六℃)となっている。紀伊水道では、沼島の東側に暖水域がみられる。

透明度 播磨灘中央部で高くなっており、十二mを越える地点もある。

プランクトン 播磨灘北部ではスケルトンマヤキートセロス等の小型珪藻が発生している。先月に比べ、灘全域でノクチルカ

の個体数が増加している。栄養塩 播磨灘表層では窒素および珪酸が少なめ、リンが平年並み、底層では窒素が少なめ、リンおよび珪酸が多めの値を示している。特に灘最深部では珪酸濃度が十八・二(μsat/l)(平年十一・六(μsat/l))あり、五月としては調査開始以来最も高い値である。

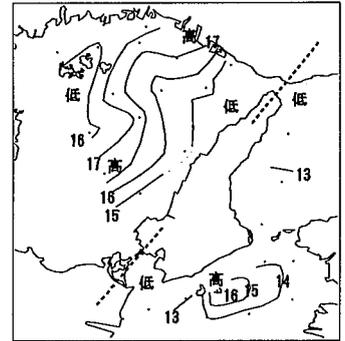
漁況

小型底曳網 明石海峡周辺を主漁場とする小型底曳網(ちん漕)では、マダコ、マアナゴ、マダイなどが主に漁獲されている。紀伊水道北部では、メイタガレイ、テナガタコ、マアナゴ等が主に漁獲されている。

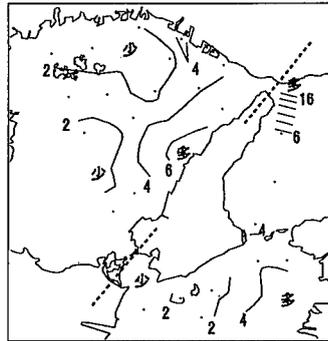
一本釣・曳縄釣 明石海峡及びその周辺海域では、マサバ、スズキが主に漁獲されている。一方、紀伊水道北部では、マアジ、タチウオ、スズキが多い。マアジのなかには五百g以上の大型のものも漁獲されている。

船曳網 紀伊水道や明石海峡周辺で始まっている、しらす漁は、現在のところまずまずの様相である。カタクチイワシ卵・稚仔卵稚仔は、播磨灘、鳴門海峡で出現しているが、全体的に平年より少ない。

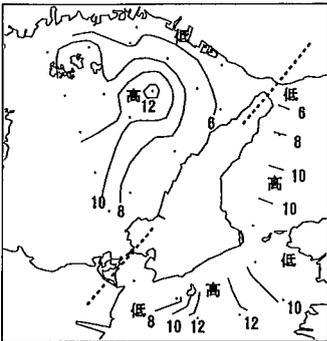
水温(表層水、℃)



窒素濃度(表層水、μsat/l)



透明度(m)



水温、窒素濃度および透明度の水平分布(大阪湾および紀伊水道のデータは平成7年4月17日調査分)

海区漁業調整委員会だより

五月十五日

兵庫県瀬戸内海海区漁業調整委員会委員協議会を兵庫中央労働センターで開催

一、漁港の整備について

漁港課より、漁港の現況及び整備計画について第九次漁港整備長期計画を中心に説明を受けた。

また、兵庫県南部地震による漁港の被害状況及び復旧方針について、説明を受けた。

五月三十日

但馬海区漁業調整委員会委員協議会を但馬水産事務所会議室で開催

一、小型いかつり光力適正化検討事業等の概要について(報告協議)

全漁連が実施している小型いかつり光力適正化検討事業の概要及びこの調査結果を基にした業界の動きについて説明がなされた後、業界の最新の動き等について協議あり。適正光力は、一八〇KWになる方向であるが、その実施時期については今後の議論の推移を

見極める必要があること、及びその規制については、業界の自主規制にとどまらず漁業制度の中に組み入れて実効力を確保しようとする動きがあることから、今後の動向を見守っていくことになった。

二、日韓共同漁業資源調査の概要について(報告協議)

標題調査の説明後、調査のねらい、国連海洋法条約批准の時期、それを見据えた全底の対応状況等について意見交換があった。

三、全国海区漁業調整委員会連合会通常総会の結果について(報告)

五月十一日に東京虎の門パストラルで開催された通常総会の結果について報告がなされた。

総会終了後、永年勤続委員表彰があり、当海区から村瀬委員、吉岡委員、川口委員が受賞し、委員協議会終了後、木下会長から賞状及び記念品がお三方に対し授与された。

四、その他

北海道沖合海域におけるいか釣り漁業の許可等に関する取扱方針の一部改正、鳥取県海面におけるすくい網漁業・ひきなわ釣漁業の操業に関する委員会指示、ホタルイカ加工技術開発試験の概要等について報告がなされた。



栽培漁業センターです

81

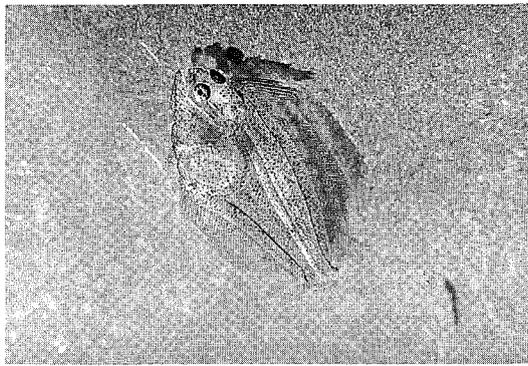


写真1 ヒラメ後期仔魚全長12mm、眼球が移行し、ヒラメラしくなってきた。

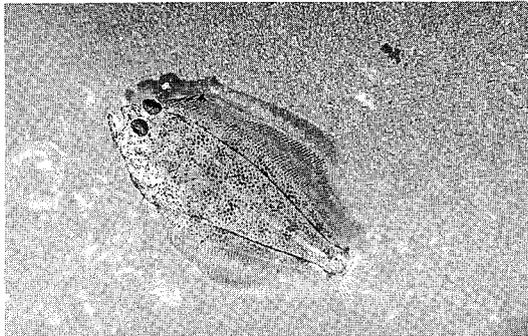


写真2 ヒラメ後期仔魚全長14mm 鶏冠状鰭条がわずかに残る以外稚魚と見分けはつかない。

一雨毎に暖かくなるとは良く言ったもので、今月に入りまとまった雨が降るたびに、気温、水温共ずいぶん高くなってきました。というわけで当センターは例年通り種苗生産事業の集中するシーズンを迎えました。まずヒラメは五月九日に合計五十九・七万尾の稚魚を関係各市町に配布し、種苗生産事業を終えることができました。前稿でお話してからヒラメ仔魚は、写真のように鶏冠状鰭条の消長、体の扁平化や眼球の移行と日々姿を変え稚魚になりました。私自身担当者として今後より多く

の稚魚が放流できるよう中間育成現場にできるだけ足を運ぶと共に、種苗生産期の問題点として残されている体色異常や変形魚の出現について解決できるよう努力します。さて他の事業については、マダイとガザミの種苗生産が始まっています。マダイは五月十五日と二十三日に三百万粒ずつの受精卵を飼育槽に収容しました。また協会二見事業場では五月十三日よりガザミの種苗生産を開始し、二十一日までに千万尾のゾエア幼生を飼育管理しています。これについては順調に生産できますと、六月上

旬には第一回目の配布ができる予定です。

このように魚類、甲殻類共に種苗生産が始まったわけですが、生産する種が違って餌料系列はほとんど変わりません。不思議に思われるでしょうが事業化しているマコガレイ、ヒラメ、マダイ、ガザミとクルマエビについては、約〇・二ミリのシオミズツボワムンから約〇・五ミリのアルテミア・ノープリウスへ餌を換え配合飼料を併用していくのが基本となっています。近頃は配合飼料の造粒技術が発達し、ワムンやそれ以下の粒径の配合も市販されていますが、まだ生物餌料に依存しているのが現状です。

夏に向け種苗生産担当者はもちろん、餌料培養の担当者も気の抜けない日が続きます。

栽培漁業センター広辞苑へアルミテア 一般にブラインシュリンプと呼ばれる下等甲殻類。原産地のアメリカ合衆国や中国から直径約〇・二ミリの乾燥卵の状態年間数十トンが輸入されている。乾燥卵は乾燥、寒冷、高温、真空等の条件に耐え、長期間保存できることや、容易にふ化ノープリウスが得られるため、全国の種苗生産機関が初期餌料として使用している。個数に換算して年間約十数兆個の乾燥卵が利用されているが、体長約十ミリの成体になるまでに二、三週間かかることが災いし、他の生物による食害で天然海域での生息はほとんど確認されていない。考えようによっては哀しい生物である。(兵裁協 楽 敦司)

普及員だより

千種川に育まれた漁家と農家の交流会

赤穂市の坂越漁協婦人部は、昨年度、初めての試みとして農家との交流会を開きました。相手方は上月町生活改善グループです。坂越の漁業は千種川の恵みを受けていますが上月町はその上流に位置し、地理的に深いつながりがあります。まず、八月に坂越の浜へ招待し、つば網漁の見学やとれとれの魚の調理実習など生の漁業に触れ、理解を深めてもらう機会を持ちました。農家から届いたコシヒカリや野菜も交え、舌鼓を打ちながらの交流となりました。そして、秋。約束どおり、秋本番の上月町へ招かれ、上月町生活改善グループが運営する農産物加工施設の見学や大撫山頂でみことなパノラマを満喫しました。中でも、こんなにやく加工が印象に残りました。何ととっても、こんなにやく芋を見るのも触るのも初めてという人がほとんどです。

往復二回の会を通じ、顔見知りもできて呼吸も合ってきました。日頃は、各々の生活で精いっぱい部員達に共通のテーマができ、みんなの顔が生きてきたようです。今は、上月町特産の「もち大豆みそ」の共同購入だけの往来ですが、小さい婦人部ながらの良さを活かして、これからも交流を続けていこうとしています。

(上郡農業改良普及センター 山口 千晴)



◆材料・分量◆

キス(小)..... 6~8匹
 大葉..... 4枚
 乾のり..... 4枚
 納豆(辛子付)..... 50g

梅干..... 3個
 卵..... 2個
 昆布、小麦粉
 醤油、油、酒
 みりん、塩、砂糖
 化学調味料
 ...各少々

◆作り方◆

キスを三枚におろし、うす塩をして昆布で押す。(半日ぐらいおく。)

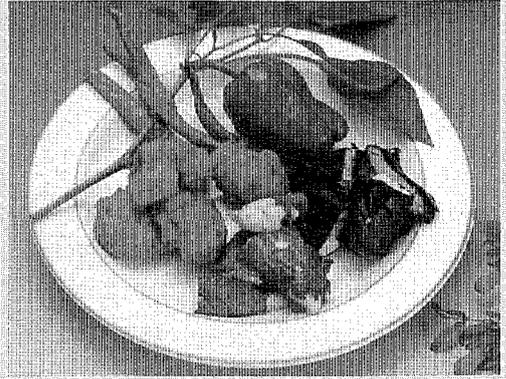
▲キスの納豆和え▼
 納豆を包丁でたたき、卵黄、こい醤油、みりん、化学調味料、辛子で味をととのえ、昆布で押したキスのうす皮をとり、刻んであえ、上に刻みねぎをのせる。

▲キスの香梅和え▼
 梅干の身を包丁でたたき、酒、みりん、こい醤油、砂糖で味をつけ、皮を取って刻んだキスとあえる。大葉を刻んで上にのせる。大葉を刻んで上にのせる。大葉を刻んで上にのせる。大葉を刻んで上にのせる。

▲キスの海苔巻き揚げ▼
 刻み、あえるとききに入れる。同右のキスを3枚ぐらいのりで巻いて油で揚げる。

▲キスの香り揚げ▼
 同右のキスを大葉で巻き揚げで止め、揚げる。

▲キスの納豆揚げ▼
 キスを刻み、納豆、卵黄を混ぜ団子にして揚げる。



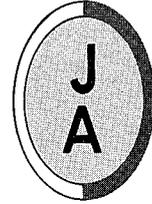
(竹谷 英世)

●キスのバラエティー料理●

旬の美味しい話 ③〇



兵庫JCC通信
 今、JA・生協では



大学復興祭で健康チェック
 大手前女子大学生協



大学復興祭のようす

チテスト、体脂肪測定、生活用品S.A.L.I.Eを行いました。
 当日会場は、それまで埋め尽くしていた工事

震災で本館が倒壊するなどの被害を受けた大手前女子大学(西宮市)では、五月二十六日、二十七日の二日間、復興祭が開催され、昨年六月に発足した生協も、栄養士による食生活相談、アルコールパツ

震災で本館が倒壊するなどの被害を受けた大手前女子大学(西宮市)では、五月二十六日、二十七日の二日間、復興祭が開催され、昨年六月に発足した生協も、栄養士による食生活相談、アルコールパツ

また、六月九日には、アメリカ全国協同組合事業協会(NCBA)会長のR.C.ノーター氏夫妻と、ツインパインズ協同組合財団理事長のデビッド・J・トンプソン氏が同大学生協を訪れ、アメリカでの全国的な阪神大震災への募金運動によって集められた募金から七千ドルが贈られました。

なお、ノーター氏は、コープこうべ総代会に出席し一万四千ドルを同生協に贈呈したほか、賀川記念館(神戸市中央区)にも七千ドルを贈りました。

「JAグリーン」は
 JAグループの生産資材店舗

近ごろ自立つようになったのが商系の生産資材専門店。しかし、肥料、農薬などの資材の提供や技術指導、きめ細かなサービスはJAが得意とする分野です。週休二日制の時代を迎え、休日でもオープンしているJAの生産資材店舗、それがJA全農とJAグループが進めている「JAグリーン」です。

「JAグリーン」の近畿・北陸管内一号店が朝来郡にオープンしました。JA朝来郡が取り組む「JAグリーンあさご」店です。営業時間は夏時間(四月~十月)が午前九時から午後七時まで。冬時間(十一月~三月)が午前九時から午後六時まで。毎週木曜日が定休日です。

同JAの敷地内に設けられた店舗は、総面積六百平方メートル。肥料、農薬をはじめ農機、培養土など六千八百アイテムという豊富な品ぞろえが自慢。このほか鉢花、観葉植物、種子、球根、野菜苗などの花き園芸関連商品を取り扱っ

ています。

JAの店舗ならではの取り組みもあります。営農相談コーナーを設けて、肥料、農薬や園芸についての相談に応じているほか、洋ラン株分けの講習会、野菜の栽培講習会や盆栽の講習会などいろいろな講習会が行われます。



JAらしさが売りものの「JAグリーン」

●サンテレビの

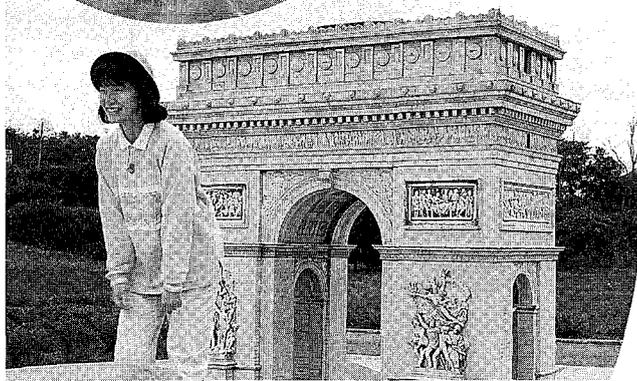
あちこち海です



初めて釣れた魚に満足



人なつっこい牛にタジタジのリポーター



ガリバー気分で楽しむリポーター

'95. 5月14日放送
(第920回)

ロケだより

ぶらり一周・
淡路島

～兵庫県淡路島より～

平成七年一月十七日は、阪神間に住むものは素より日本全国、忘れられない一日になりました。あれから四ヶ月……ツメ跡はまだまだ癒しものがありませんが、震源地となった淡路島を一周……元気な淡路島の姿を取材してみました。震源地の町として全国津々浦々に知れわたった北淡町、被害の大きかった町中も整備され、港も活気を取り戻して来ました。北淡町は漁業が一つの顔ならば、もう一つの顔が果実栽培です。初夏の枇杷・夏の葡萄、秋の番柿と……潮風で育つ果物は甘味が増し、美味しく育つのです。丁度、取材に伺った時は枇杷の袋掛けに忙しい時期でした。九十センチ程にも隆起した断層の走る枇杷園に自然の威力の凄さを思い知らされる一日でしたが、枇杷の木はビクともせず小さな青い実を枝一杯につけ初夏の日差しを待つばかりでした。そして隣の一宮町は花盛り。丘の上のパルシェ香りの館で東西の香りを満喫。大人気の香りの湯はこの日、白檀の香りでした。淡路島が初めての未沢リポーターは、まだ一周が始まったばかりなのに感激しっぱなしのスタート。五月に開館する五色町の高田屋嘉兵衛記念館も江戸時代に活躍した偉大な先人の業績を知るのに相応しい顕彰館。西淡町では、これもリポーター初体験の慶野松原で松露狩り。丸山漁港の入口の弁天島の海釣り公園は、大鳴門橋が一望できる自然を生かした釣り公園、沖には筏。リポーターが初めて釣ったのは自分のズボン。松の木を釣ったり大騒動の挙げ句、隣の釣りの釣った大

きなガシラを横目に小さなガシラを一匹。渦潮と人形浄瑠璃・鱧の南淡町では、鱧の美味しさを再確認。もともと涙もろいリポーター、人形浄瑠璃館で『傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段』に感激。若い浄瑠璃館のメンバーと人形浄瑠璃の魅力について暫し若者同士の話に花をさせたのでした。淡路島で海に面していない町が三原町と緑町。三毛作地帯の三原平野の三原町は、青々と収穫を待つばかりの玉葱畑、淡路牛乳の発祥地。淡路島牧場にはホルスタインが一万五千頭、何と一リットル入りのバック八万本の牛乳が毎日とれるとか。乳搾り体験にバターやチーズの手づくり体験、盛り沢山の淡路島牧場は楽しさが一杯です。そして淡路島のファームパークでは可愛いコアラが人気を呼んでいました。緑町の兵庫県の重要文化財に指定されている平等寺の木造薬師如来を拝見して洲本市へ。津名町は金塊の町として名を馳せましたが、ユニークな町づくりと関西国際空港への海のアクセスの拠点として発展する町。最後に訪ねたのが花の町、東浦町。ハウスの中はカーネーション等の花々が農家の方々の手を受けて美しく咲き誇っていました。東浦町は何と『吹き戻し』の生産全国八割を占める町。あの懐かしい『吹き戻し』、淡路島には是非観光客が戻れと必死に吹くりポーターに皆思わず大爆笑。リポーターの初めて訪れた淡路島の感想は、「何か得たみたい」淡路島は地震に負けずがんばっています。花とオレンジとミルクの島。皆さん淡路島へ是非出掛けて下さい。

1995年6月10日発行 通巻464号
昭和32年10月18日 第3種郵便物認可

発行人 兵庫県漁業協同組合連合会

発行所

兵庫県漁業協同組合連合会
(財)兵庫県水産振興基金

〒652 神戸市兵庫区中之島2-2-1

TEL 652-3424
FAX 671-6885

定価80円(本体78円)